

カナダの金融市場動向 Weekly Report

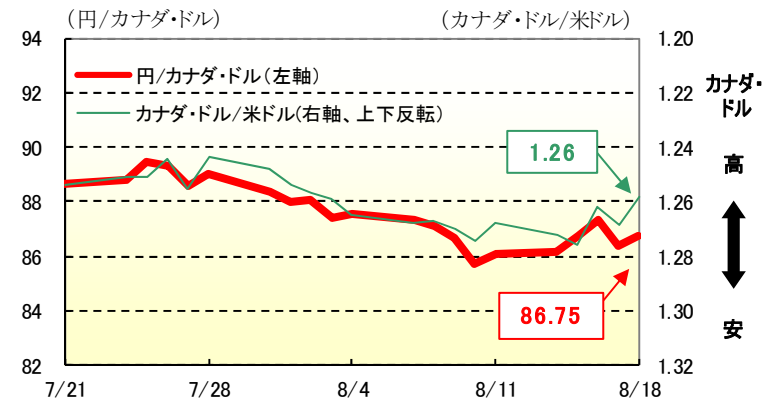
【2017年8月12日～2017年8月18日の推移】

【1】先週の回顧

先週のカナダ・ドル円は上昇し、カナダ5年国債利回りはほぼ横ばいに推移しました。

週前半は、北朝鮮に関する地政学リスクが後退したことや、米国の金利が上昇したことなどがカナダの金利やカナダ・ドル円の上昇圧力となりました。週後半は、トランプ政権に対する懸念などから米国の金利が低下したことや、スペインでテロが発生し市場のリスク回避的な姿勢が強まったことが、カナダの金利低下圧力となりました。

【カナダ・ドル 為替推移】 (2017年7月21日～2017年8月18日)



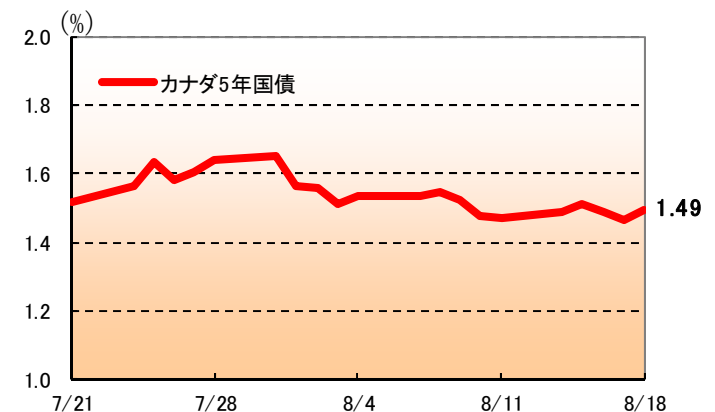
※四捨五入の関係で数値とグラフの目盛りが一致しない場合があります。
(出所) Bloomberg等より大和投資信託作成

【2】今週の見通し

カナダは、経済が堅調に推移していることで追加の利上げが期待されることや、欧州や米国など世界的に金融政策が緩和から正常化へ向かう流れとなっていることなどから、金利は上昇圧力が優勢になるとみえています。

今週は、カナダで小売売上高が発表されます。市場予想を上回る結果となれば、カナダの金利やカナダ・ドル円の上昇圧力になるとみえています。また、米国でイエレンFRB(米国連邦準備制度理事会)議長講演も予定されており、発言内容に注目が集まるとみえています。

【カナダ 金利推移】 (2017年7月21日～2017年8月18日)



(出所) Bloomberg等より大和投資信託作成

当資料のお取り扱いにおけるご注意

■当資料は、ファンドの状況や関連する情報等をお知らせするために大和投資信託により作成されたものであり、勧誘を目的としたものではありません。■当資料は、各種の信頼できると考えられる情報源から作成していますが、その正確性・完全性が保証されているものではありません。■当資料の中で記載されている内容、数値、図表、意見等は当資料作成時点のものであり、将来の成果を示唆・保証するものではなく、また今後予告なく変更されることがあります。■当資料中における運用実績等は、過去の実績および結果を示したものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。■当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。販売会社等についてのお問い合わせ⇒大和投資信託フリーダイヤル0120-106212(営業日の9:00～17:00) HP <http://www.daiwa-am.co.jp/>